

平成30年度 特別養護老人ホーム 事業報告

(期間:平成 30 年 4 月 ~ 平成 31 年 3 月末)

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献の視点	地域交流の充実を図る	野瀬自治会の地域清掃や夏祭りへの参加や交流会に参加する。	参加回数	年4回	年3回	野瀬の自治会の地域清掃が6月10日と10月7日にあり参加した。また、野瀬地区の夏祭りの準備とアイスクリームの販売をお手伝いさせていただいた。シニア層の新規雇用についてはなかった。
	シニア層の雇用促進	朝、夕の忙しい時間帯に短時間でも勤務して頂ける方を採用したい。	採用人数	2~3人	なし	
収支の視点	稼働率の向上	退去や入院時のベッドコントロールを効率よく行う。ショート稼働率をキープする。キープできない時は、ロングショート居室を増やす。	特養・SSの稼働率	特養:98.0% SS:100%	特養:94.9% SS:86.1%	特養、ショートステイともに目標値を達成できなかった。原因としては、9月に発生した疥癬による影響と、同時期に発生したロングショート利用者の急なキャンセルが重なったこと、それから、8月と12月以降に特養入居者の退居が集中して発生してしまったことが挙げられる。次期入居者が決定すれば、またすぐに退居者が出るという悪循環が続いたことで、待機者の確保も追いつかず、空室をショートステイで埋めていくこともできなかった。新規加算取得については、算定可能なものについて調べてみたが、算定要件が厳しく、対応が可能なものがなかったため叶わなかった。
	報酬改定後の新加算取得	Dr. や看護師と連携して原因の分析を行い、支援計画を作成。	排泄支援加算	100単位/月 期間未定	算定なし	
		入所者ごとにモニタリング指標を用いて評価し、高リスク者においては、褥瘡ケア計画を作成し3か月おきに評価し見直す。	褥瘡マネジメント加算	10単位/月 3か月に一回限度	算定なし	
		新規入所時または再入所時のみ半年間算定可。栄養ケア計画は月1回以上見直し。週5日は食事の観察に管理栄養士が訪問。	低栄養リスク改善加算	300単位/月 半年限り	算定なし	
		退院時に栄養管理が著しく変化している場合、医療機関の管理栄養士と相談し、ケア計画を作成した場合に算定可。	再入所時栄養連携加算	400単位/回	算定なし	
利用者・家族の視点	家族交流会・勉強会の開催	施設におけるリスクマネジメントや感染予防に対するの事例発表を行う。	開催回数	年1~2回	1回	10月27日に法人職員と特養とGHの入居者ご家族様対象に、感染予防と食中毒についての勉強会を開催した。疥癬の影響もあり、ご家族の参加人数が少なかったが、それでも、改めて感染症についての知識と理解を得る良い機会になったと思う。環境整備についての研修は、講師を依頼して実施したが、費用面で折り合いがつかず実施できなかった。
	居室の清掃と環境整備	全職員に居室清掃や環境整備についての研修に参加してもらう。	活動実績	研修参加率100%	実施できず	
業務プロセスの視点	業務効率の向上	ICTの導入・活用に向けて、積極的に現在使用している介護トータルシステムを使用する。	退社時間の遵守/人員配置見直し	退社時間や休憩時間確保		介護トータルシステム『寿』のバージョンアップと共にデータ入力の簡素化も同時に行った。平成30年11月15日に西播磨県民局による実地指導の実施に伴い、各種指針やマニュアルの見直しと修正を行った。
	各種マニュアルの見直し	感染予防、褥瘡予防、危機管理等の今あるマニュアルを見直し、訂正箇所などあれば、修正していく。	修正資料確認	上半期中に完了	上半期中に完了	
学習と成長の視点	研修委員の確立と研修内容の充実	年間の内部・外部研修の計画を立案し、遂行していく。予め日程も決めておく。	研修開催回数	年12回	年10回	一年を通して研修委員会のメンバーをそれぞれの建物から選抜、固定できたことで、研修プランやルール作りができてよかったと思う。施設内研修については、感染症による制限があり、プラン立てが難しかったと思うが、10回開催できたことは評価できる。今後の課題としては、どうしても感染症の流行時期があり、予定していても開催できない研修があるため、その際の対応方法を考える。それから、資格取得に向けた勉強会の開催は、参加人数も少なく、参加者がゼロの日もあったので、開催方法を見直す必要がある。
		中途採用者用の研修プログラムを作成する。	開催回数	年2回	年2回	
		資格取得に向けた勉強会の開催	開催回数	年6回	年6回	
	新人職員担当者の育成(メンター制度の導入)	新人職員の担当者になる者に対して、配属後しっかり教育できるようにプログラムを作成し育成する。				

平成30年度 グループホーム野瀬 事業報告 (期間:平成 30 年 4 月 ~ 平成 31 年 3 月末)

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献の視点	・地域行事、地域活動への参加。	・野瀬地区の行事(納涼祭、とんど)への参加	地域行事参加回数	全行事参加	年6回	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回(8月、12月)の、ふれあい昼食会への参加と、野瀬地区の 行事(納涼祭、とんど)への参加。納涼祭は野瀬地区の入居者様参加。とんどは、インフルエンザの全国的な流行もあり、管理者のみ参加。年2回の草刈りにも管理者のみ参加。 ・利用者様の急変や重度化が多く、地域の方との新たな行事を計画する事が出来なかった。 ・6月と10月の運営推進会議で台風や豪雨災害時の避難場所について話合う。治安状況なども話し合い、野瀬自治会長の紹介で相生警察署による防犯対策の講習も行えた。
	・台風などの災害時には安全を第一に	年2回のふれあい昼食会での交流、さらに野瀬				
	出来るだけ地域の方と協力する。	地区の活動(草刈り等)への協力。				
		・地域の方と一緒に楽しめる行事を計画する。				
		・運営推進会議などで災害時の対策を話し合う。				
収支の視点	・稼働率の高水準を保つ。	・骨折入院を減らすために見守りや声掛けの強化。	稼働率	98%	98%	<ul style="list-style-type: none"> ・骨折入院は昨年と同じく3名おられた。その他にも胃潰瘍による吐血入院もあった。 ・医師と訪問看護師の協力により、グループホームで初めての看取りを行った。 ・今年度は利用者様の入れ替わりが多く、6名おられた。それぞれ空床期間は短かった。 ・入院期間と利用者様の入れ替わりの際の空床期間を合わせた結果、稼働率が目標値に達しなかった。 ・サービス提供体制強化加算は変更できなかったが、新たな加算申請は出来た。(口腔衛生管理体制加算、入院時加算)平成31年4月より、サービス提供体制強化加算は変更申請できた。
		・下肢筋力の維持を図り、転倒、転落を予防する。				
		・医師、訪問看護師と協力し入院患者を減らす。				
		・介護福祉士が60%以上になればサービス				
	・加算申請(見直し)	提供体制強化加算を変更する。				
利用者の視点	・家族交流会	・ご家族との交流する機会を作り、職員との関係性	家族様の参加人数	半数以上	式部はクリア	<ul style="list-style-type: none"> ・6月16日に式部の家族交流会を開催し、6家族10名の家族様に参加して頂けた。 ・6月30日に小町の家族交流会を開催し、4家族7名の家族様に参加して頂けた。 ・小町ユニットでは昨年に引き続き、11月に家族様参加型の日帰り旅行を実施する。今回は赤穂のかんぼの宿へ行き、久しぶりの家族様の旅行を楽しんで頂けた。
		を深め、何でも話し合える関係作りをする。			小町は未達成	
		・ご家族参加型の日帰り旅行をする。				
業務プロセスの視点	・業務の見直し	・生活記録「寿」(パソコン)の導入。	利用者、職員の声	今年度内	少し未達成	<ul style="list-style-type: none"> ・6月より、生活記録「寿」の導入を行い、現在は職員もパソコンに慣れてきて業務短縮に繋がっている。 ・買い物業務は、商品の一部宅配を行っている。調理業務についても簡素化を図りつつある。平成31年4月より、式部ユニットのみ試験的に夕食のみ厨房に業務委託をしている。 ・ボランティアは、疥癬やインフルエンザが全国的に流行していたために制限が掛かった。
		・買い物、調理の見直し。ボランティア、外部				
		委託など。				
学習と成長の視点	・介護力についての接遇を考える。	・ユニット会議での勉強会や、職員面談時に考える。	利用者、職員の声	今年度内	未達成	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット会議や勉強会で接遇について何度か取り上げているが、引き続き継続して勉強会を行ったほうがいい。 ・利用者様の急変や重度化、職員の忌引きや体調不良による休暇が多く、面談を行う時間が十分に取れなかった。 ・法人内研修はレポート提出などもあり、まずまずの参加率があった。
	・職員面談を行う。	・5分~10分ほどの面談を行う。	実施回数	年4回	年3回	
	・法人内研修に参加	・法人内でのサービスや意識の標準化を目指す。	実施回数	年4回	達成	

平成30年度 グループホーム那波野 事業報告

(期間:平成 30 年 4 月 ~ 平成 31 年 3 月末)

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献の視点	・認知症カフェを開催し、地域に貢献する。	毎月1回開催し、居宅、地域包括にもチラシを配布する。 チラシは管理者が作成する。	参加人数	1回10名	1回5~6名	開催場所をGHなばのに8月から変更するも、8月は疥癬のため実施せず。10月に地域包括長寿福祉室の方と共に今後について話合いの時間をもつ。6月まではキッチン夢来にて開催。相生市オレンジサロン連絡会、西播磨オレンジサロン連絡会に参加する。
	・地域との交流機会を増やす。	地域の行事「なばのふれ愛」「とんど」などに積極的に参加する。 その他行事の把握。	地域住民	数回	出来ている	出来ているので、今後も継続する。
収支の視点	・稼働率の安定を図る。	散歩やレクを通じて筋力低下を防ぎ転倒を予防する。	稼働率	98%	96.30%	目標値には達していない。4月、6月、9月、31年2月、3月に長期の入院があり急な退所も重なり空室もできた。
		口腔ケア、嚥下体操を通じて肺炎を予防する。	回数	毎食前	継続して行った	継続して行えた。又口腔ケア指導を受けることによりより予防効果が上がっている。
	・経費削減を図る。	光熱費を確認し削減に努める。	光熱費	前年より削減	前年より増	水道料金が特に増えていた。理由が疥癬による入浴回数が増えたこと以外なさそうである
	・待機者の確保をする。	GH待機者の追跡調査をする。	待機者人数	年間5名	確保している	GH全体で10名程度。今年度は1度でも営業に回ったことで待機者の確保につながった。認知症カフェを通じては待機者は募れない。
	・業務改善	効率性を考えた業務の見直しを図る。	人件費率	70%	78.30%	入院等、入退所で稼働率が低下した。
利用者の視点	・外出機会を増やし外部との関わりを持つ。	個人に買い物外出をする。利用者の気分転換と下肢筋力の低下防止を図る。	行事回数	利用者1人週1回	出来ている	外出の機会は最低でも週2回ユニットの食材の買い物に利用者が同行している。その他の行事や個人外出も積極的に行っている。近隣への外出(街並みガーデン見学)、花見等、様々な場所へ外出した。
	・運営推進会議への家族の出席	家族に直接依頼する。その後依頼文書を送付する。	出席回数	隔月1回	出席出来ている	推進会議の意義等を説明し快諾していただき、出席していただいている。
	・調理の機会を持つ。	調理の補助を積極的にしていただく。	実施回数	毎日	毎日ではないが実施	今後も継続していく。
業務プロセスの視点	・緊急時の対応の習得と強化	緊急時対応についてマニュアルに沿ってシミュレーションを行う。 誤嚥時等の対応方法について、看護師より指導を受ける。	実施回数	年間2回	年間2回	看護師訪問時に緊急時対応の指導を受ける。
	・各マニュアルの見直しと再確認をする。	各委員におけるマニュアルの見直しを行い周知徹底を図る。	実施回数	年間2回	年間2回	年間2回6ヶ月ごとのマニュアルの見直し作成後周知徹底を行った。
	・インフルエンザ対策のマニュアル化	対策マニュアルを作成する。		年間1回	年間1回	新規マニュアル作成 疥癬マニュアルも新たに作成した。
学習と成長の視点	・認知症についての理解とケアレベルの向上	認知症に関する研修を行う。	実施回数	年間4回	年間4回	法定部研修は行った。資料での回覧研修も随時行った。
		その他認知症関連の研修への自主参加	習熟度	2回	2名参加	認知症ケア専門士単位取得研修に参加。
	・リーダー候補の育成	外部研修へ参加する(認知症実践者研修)	習熟度	年1回	不参加	GHで疥癬流行のため参加を見送った。
	・法人内研修に参加	法人内でのサービスや意識の標準化を目指す。	実施回数	年4回	参加	多数参加できた。

平成30年度 デイサービスセンター 事業報告

(期間:平成 30 年 4 月 ~ 平成 31 年 3 月末)

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献 の視点	・地域のサロンや地域主催の行事に参加する	・依頼時に参加する	実施件数	新規2件	新規2件	・初めて図書館からキャラバンメイト要請時に他事業所との合同で参加した。 ・野瀬4回、古池2回、双葉1回、新規で相生1回、地域のサロンに参加し、健康体操やレクリエーション、事業所アピールを行った。
収支 の視点	・稼働率の維持	・稼働率を毎日確認する	稼働率	一般型 86% 認知型 73%	一般型 83.2% 認知型 66.4%	・ショートを利用される方が増えたのに対して、新規利用者の紹介が少なかった為、稼働が伸びなかった。 ・利用者数に対して職員の配置を毎日調整したが、収益が伸びなかったので人件費率が高くなった。 ・6月、3月の職員会議の前の一斉清掃を行った。9月予定していたが、雨で外の清掃は中止となった。12月に毎日1か所ずつ施設内外の大掃除を行った。
	・人件費率の管理	・人件費とサービス活動収益の割合を確認する	人件費率	57%	61.50%	
	・施設周辺の清掃を行う	・職員会議の前におこなう	回数	年3回	年2回	
利用者 の視点	・利用者様の心身機能の維持・向上	・個別機能訓練とリハビリ体操を毎日行う	人数	10人		・職員によるリハビリ体操をDVD制作し体操を毎日行った。 ・ADL評価を毎月評価し、向上効果があった方を広報誌で紹介した。 ・調理リハの評価を半年毎に行い、家族とケアマネに配布した。 ・ボランティアと利用者が作成した手芸の作品を月刊誌に応募し入賞した。
	・調理リハビリの様子を家族、ケアマネに伝える	・調理リハに参加された様子を毎回記録し変化をみる	人数	5名	5名	
	・ボランティアの協力を得て、業務の効率を図る	・利用者様の特技を引きだし、作品を作る	ボランティア回数	月8回	月8回	
業務プロセス の視点	・業務の効率を図る	・常勤会議で業務分担の見直しを行う	回数	年2回	年2回	・業務の内容を見直し、午後からの業務改善を行った。 ・ルンバを導入し清掃時間を省く事で翌日の準備や違う業務に早く取り掛かるようになった。
学習と成長 の視点	・研修に参加し知識と技術を向上する	法人内や外部研修に参加し勉強会を行う	回数	年2回	年5回	・法人内研修には毎回参加し内容を勉強会にて報告した。認知症リーダー研修受講。講師を招き、緊急時対応実習、口腔ケア研修、防犯講習、ストマー講習会を行った。

平成30年度 ヘルパーステーション事業報告 (期間:平成 30 年 4 月 ~ 平成 31 年 3 月末)

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献 の視点	・市内クリーン作戦	・居宅と合同で年2回のゴミ拾い実施。	実施回数	年2回	年2回	<ul style="list-style-type: none"> ・4月10日 旭地区の市役所からみなと銀行辺りまでゴミ拾い実施。 ・10月12日 マックスバリュー、ペーロン城から関西電力辺りまでのゴミ拾い実施。 ・いずれも赤のこずもす倶楽部の名前入りのジャンパー着用につき、地域の方の目に留まるように実施。
収支 の視点	・訪問件数の維持、増加を図る(主に介護者)。	・各居宅に営業活動。	訪問回数	毎月600回	月平均498回	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の実績配布や担当者会議の際に居宅のケアマネにヘルパーの空き状況を伝えるなどし営業活動実施。 ・今年度は、入院、入所、死去が続き実績がさがった。 ・新規契約者は比較的介護度が軽度であるため、訪問回数が目標には達しなかった。 ・新規契約27件 終了者24件 ・平均介護度 4月1.16 → 3月1.14
		・パンフレットの配布。				
利用者 の視点	・利用者の思いを大切にしみ慣れた自宅や地域で 安心した生活を送ることができるよう支援する。	・各事業所及び地域の方と連携を図り、情報を共有し サービスを実施する。	利用者件数の維持	毎月65件	月平均54件	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の日々の健康状態と精神状態を把握し担当ヘルパー全員で共有できるよう実施した。 ・利用者の状態をこまめにケアマネに報告実施。 ・担当者会議等で関係機関との情報交換を実施。課題の解決に努力した。 担当者会議出席 年間52件
業務プロセス の視点	・利用者ファイルの整備。	・利用者ファイルの整備。	利用者件数	月5件	月5件	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ファイルの整備を実施するも、日々状態が変わっていく利用者もいるためなかなか追いつかなかった。
学習と成長 の視点	・外部研修に参加。	・県、西播磨ヘルパー協議会主催の研修会に参加。	参加回数	年間4回	年間6回	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、県、西播磨のヘルパー協議会主催の研修会への出席回数が年間5回参加できた。あとの1回は相生市主催の「在宅医療会議」に出席。 ・法人主催の研修会にも年間8回参加。
	・研修の充実。	・毎月のヘルパーミーティングの充実。	実施回数	月1回	月1回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパーミーティングは毎月開催し、その際に時間を設け研修会の実施。今年度は、デイと合同で播磨病院認定看護師土井師長を講師とし、ストマの研修を実施した。 ・ミーティングの課題は、法定研修をはじめとして利用者の課題を吸い上げ実施した。

平成30年度 居宅介護支援事業所 事業報告 (期間:平成 30 年 4 月 ~ 平成 31 年 3 月末)

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献の視点	市内クリーン作戦	市内交通量の多い歩道のゴミ拾い	実施回数	年2回	年2回	市内クリーン作戦を行う際はこすもすジャンパーを着用。すれ違う市民の方から「ごろうさま」と声を掛けて頂く機会も多くなり、こすもす倶楽部の活動について認知されるようになっている。
	サロンや地域主催の行事に参加する	地域行事への参加、サロンの講師等で地域とのつながりを継続する	実施回数	年4回程度	年3回	地域のサロンや行事にも出向き、担当者や参加者と話すことで地域課題が見えてくるため、主任ケアマネ委員会にて提案することで、地域資源の発掘につながっている。
	法人実施のイベント・セミナーへの協力	ケアマネ業務に支障が無い範囲での調整	実施回数	(事業開発の計画)	年2回	法人主催のオレンジサロンでは、担当利用者様とご家族様に内容を紹介し参加を促した。利用者は参加されなかったが、ご家族様の中に楽器の演奏が出来る方がおられ「当事者やご家族の癒しになれば」とチェロの演奏をしてくださった。
	24時間地域見守りサービスへの協力				なし	24時間見守りサービスについては実施されていない。
収支の視点	特定事業所加算の算定を開始・継続する	会議の定期開催、24時間の連絡体制、計画的な実施研修、困難事例への対応、担当件数の遵守、実習受け入れ等の実施	加算算定	毎月	毎月算定	特定事業所加算Ⅰ～Ⅳある中でⅢ(利用者様1名につき300単位算定できる)を算定、主任ケアマネ1名と介護支援専門員2名の在籍が必要となっており、そのほかの算定要件を満たしているため毎月算定できた。 契約書には24時間連絡が取れる体制を取っていることを明記しており、各ケアマネの携帯を利用者様や家族に伝えている。家族の中には仕事をされている方や一旦介護が落ち着いた状態で連絡が入ってくることもあり、どうしても勤務時間以外(夜間や休日)での連絡調整も必要になってくるので随時対応している。 困難事例は増加傾向にあり、利用者様とご家族様を含めたマネジメントが必要な状態であるため、頻回な訪問になる。ただ月に何回訪問しても収入増加には繋がらずかなりの時間を割くようになるが、他の利用者様の処遇が滞らない様に職場内で情報共有し対応できるよう心掛けている。 今年度は2名の実習生を受け入れ、介護支援専門員の業務について指導をおこなった。
利用者の視点	個々のライフステージに応じたサービスの提案をおこなう	自法人のサービス利用状況の確認 集中減算にならないかの確認	毎月の利用状況	前月比	大きな変動は無い	毎月10日に国保連への請求業務が終わった時点で利用状況を確認している。毎月モニタリング訪問を行なっているが、利用者様の身体状況やご家族様の介護力等確認しながら、集中減算にならない様自法人サービスの提案をおこなっている。ショートステイに関しては、ご夫婦健在の場合、介護保険負担限度額認定証が無ければ、食費や居室料は減額されないため、その時点で従来型居室を持つ施設を選択される傾向にある。 集中減算については、半年に1回チェックし、違反がなければ市へ提出しなくても良いため事務所に保管している。
業務プロセスの視点	ケアマネジメント課程の見直し	コンプライアンスの視点に沿って利用者ごとの必要な書類や記録の見直しを実施	実施回数	年1回	必要に応じその都度実施	利用者ごとの必要な書類をファイルにまとめたり、日々の支援経過など出来るだけその日に入力できるよう業務配分を心掛けている。ケース対応に悩んだりつまづいたりする場合もあるため、担当ケアマネが一人で悩みを抱え込まない様、随時相談し対応している。
	定期的な会議を開催する	週1回事業所内での勉強会・事例検討会の実施	実施回数	週1回	実施	
学習と成長の視点	個人の資質向上	研修計画に基づき研修会へ参加する	研修計画に基づく	年2回	年10回	研修計画に基づきケアマネ業務に必要な研修に随時参加。業務をおこなうにあたり、幅広い知識が必要であるため、高齢者に多い疾病、生活困窮者に関する制度や連携先について、口腔衛生に関する研修、ターミナル研修、医療と介護の連携、成年後見制度など随時参加、利用者様にとって最適なケアマネジメントが提供できるよう努めている。
	介護支援専門員実務研修実習受入協力事業所として、適切な実習環境を整える	上半期内にマニュアルを整備し職員間で共有できるよう勉強会を実施する	実施回数	月1回	マニュアルは作成したが勉強会は未実施	
		実習生の受け入れ	実施回数	年1回	なし	